

公債費のバランスを考  
え慎重な財政計画を  
財政の健全性を確保した  
中期財政計画で



春緑クラブ  
高橋 寿議員

**問** 25年度予算は前年度対比6.7%増になっています。新設小学校整備事業・交流拠点複合施設など数年にわたる事業があるから村債の激増が必至であり、慎重な財政運営が望まれますが考えを伺います。

事業など約5200万円の増、教育費は新設小学校整備事業など約1億円の増となっています。今後、義務的経費の増高による経常収支比率の悪化が予想され財政構造の弾力性が弱まると見られます。

**答** 25年度予算は6.7%、9億9100万円の増となっています。総務費の防災・減災機能施設整備事業、賦課徴収システム更新事業、庁内LAN仮想環境構築事業など8億5200万円の増、民生費は児童手当給付事業、子育て支援対策臨時特例事業など3億3400万円の増、農林水産業費は牧草地再生対策補助

また、実質公債比率は緩やかに下がりますが、大規模複合施設など多額な財政投入が続くことから新規村債発行、公債費のバランスを考慮しつつ健全財政に努めます。

**農林業の振興策について**  
**問** 新規就農者対策、農地の集団化・不耕作地の解消など政策を掲げて久しいが、目に

見えての効果がありません。そこで、政策実現のための新たな戦術を考えるべきと思います。また、担い手問題・新規就農者問題などの基本にあるものとして農業所得の問題が大きい事から地域ブランド化の構築による付加価値の高い産品対策が急務と思うが考えを伺います。

**答** 新規就農者については国の目標が現状の1万人から2万人となっている事から、目標達成のため「新規就農・経営継承総合支援事業」を予算化し、経営が軌道に乗るまで支援する青年就農給付金制度で対応します。

農地の集積については耕種部門の小区画農地が多い事、農地が点在していることなどから敬遠され集積が進んでいません。また、農地が耕作放棄地に至る要因は農産物多様性の保全など生活環境を守る機能を有しており、大変重要なことと考えます。

**健全な森林の保全策は**  
**問** 森林の持つ機能は多岐にわたり、健全な保全策が叫ばれながら林業の衰退により手入れ不足が指摘されています。そこで本村の森林保全策について伺います。

民有林保全整備は、造林・除間伐及び枝打ちを実施する事業体を実施経費の助成を行います。村有林保全整備は、国・県の補助事業を活用しながら、除間伐等森林整備を計画的に実施していきます。

**新設小学校校舎設計の基本的考えは**  
**問** (仮称)滝沢中央小学校校舎設計の基本的な考え方を伺います。

「協働」「エコ」とし、それぞれの項目について、創意工夫を盛り込んだ設計を行うものと考えています。建物の構造は、新設小学校整備委員会、「主体的には、鉄筋コンクリート」を基本とした堅牢で災害に強い建物で、子どもたちが触れる箇所や空間の構成は、木材を適材適所に多用した施設とすることとしていきます。

**役場を結ぶ交通網の現状と今後の方向性は**  
**問** 複合施設の開設に併せ、村内各地域と役場、複合施設を連絡する幹線交通網の整備について検討を進めると

本村の2月末現在での報告は14件になっています。その内容は「悪口」「物かくし」であり、万引強要、ケガを伴う暴力、恐喝の報告はありません。また、14件のうち12

**その他の質問**  
住民自治のあるべき姿と実現の方法は  
滝沢地域デザイン推進事業の見直しは

この効果は期待され、「安心できる長寿社会の実現」「より住みやすい滝沢村の実現」につながるものと考えています。「滝沢村地域公共交通会議」などで協議、調整を進めていきます。

村の特徴を活かした  
6次産業の振興施策は  
さつまいもやりんごの6次  
化を図り他の開発も



しののめ会  
黒沢 明夫議員

**答** これまで、さつまいも「クイックスイート」やりんごの「はるか」の生産奨励を図り6次産業化に向けた取組を支援してきました。

村の総面積の4割が森林です。森林は、林産物の供給、山地災害防止、水源かんよう、地球温暖化防止機能、生

現在、29年4月開校をめざし、準備を進めています。「新設小学校整備委員会」を設置し、キーワードを「安全・安心」

品質保証したうえで販売しましたが、高価格設定にもかかわらず完売しました。確たるブランド化に向けて努めます。



滝沢地域デザイン推進事業の見直しは